

## 国際交流セミナー

主催：成蹊大学文学部国際文化学科

後援：東京フィリピン研究会

協賛：成蹊大学アジア太平洋研究センター

# フィリピン人ケア・ワーカーの移民史

—日本の現状をアメリカの経験と共に考える—

日時：6月4日（月）

15：00～17：00

場所：成蹊大学9号館403室

# 参加費・事前申し込みは不要です

フィリピン人及びインドネシア人が、日比経済連携協定（JPEPA、2006年9月締結）に基づき来日し、看護師・介護福祉士として就労することが、新聞の紙面等を賑わしています。その一方、特に80年代末以降、様々な経緯でフィリピン人が日本社会の一員として生活を営んでいます。本講演では、アメリカ社会の経験を参照しつつ、フィリピン人のケア・ワーカーを人材として捉えるのみならず、日本社会における生活者、次世代の形成者、多民族家族の担い手として理解し、フィリピン人・その他の外国人・日本人が共生する意味を考えていきたいと思えます。

講師の紹介：

キャサリン・チョイ氏は、フィリピン系アメリカ人の研究者で、アジア系アメリカの歴史についての評価の高い業績を残してきています。主著『ケアの帝国—フィリピン系アメリカ史における看護と移民—』は米国アジア系アメリカ学会（AAAS）などでの賞を取りました。その後は、比米間の国境を越えたフェミニズム運動や国際的な養子縁組についての研究も進めています。

レイ・ベントウーラ氏は、1988年に来日し、『ぼくはいつも隠れていた』では、不法労働者としての体験、『横浜コトブキ・フィリピーノ』では、在日フィリピン人としての定着と家族形成についての自伝的な文学を残してきています。日本におけるフィリピン系移民文学の初出とも言えるもので、フィリピン文学研究の中でも注目されています。

Choy, Catherine Ceniza. *Empire of Care: Nursing and Migration in Filipino American History*. Durham: Duke University Press, 2003.

レイ・ベントウーラ. 『横浜コトブキ・フィリピーノ』 森本麻衣子訳. 東京: 現代書館, 2007.

———. 『ぼくはいつも隠れていた: フィリピン人学生不法就労記』 松本剛史訳. 東京: 草思社, 1993

連絡先：成蹊大学文学部助教 岡田泰平 携帯 080-5528-2545 /

メール taiheiokada@fh.seikei.ac.jp